

# いきいき 行人

行田への思いを込めた作品で  
「埼玉の自然」フォトコンテストの  
最優秀賞を受賞

小山 憲一さん (64歳・埼玉)

今月は第26回私がみつけた「埼玉の自然」フォトコンテスト(以下コンテスト)で最優秀賞を受賞した小山憲一さんを紹介いたします。

小山さんが本格的に写真に取り組んだのは、高校卒業後。念願の一眼レフカメラを購入し、わくわくしながらファインダーをのぞくと、そこには普段見慣れた景色とはまったく別の世界が広がっていたそうです。すっかりカメラのとりこになってしまった小山さんは、仕事がある日でも朝早く起床し、「相棒」(カメラ)を片手に、近所の風景や草花などを撮影しました。趣味として写真を楽しんでいた小山さんですが、自分のカメラマン魂に火をつける作品が目前にあるカメラ雑誌を見ていると、大賀蓮(おおがはれん)の写真が掲載されていました。「自分の近所には古代蓮が咲いているじゃないか。私もこんな風にうまく蓮を撮りたい」という思いから、東京の写真



クラブ「寫壇(しゃだん) 太陽」に30歳のときに入会。プロの写真家から指導を受けながらモデルや風景まわりのスナップなどさまざまな分野の撮影に毎週臨み、撮影技術や被写体へのアプローチ方法など、プロの技を身に付けていきました。ここでの体験を通じて、小山さんは「自分が感じたものをより強く表現し、伝えていく写真を撮ろう」と意識するようになったそうです。

初めて応募した埼玉県展で入選し、その後も数多くのコンテストで賞を受賞。現在、行田市美術家協会の審査員など務める小山さんは、行田の写真界を引っ張る存在となっています。

今回のコンテストで最優秀賞を受賞した作品「残望の風景」は、昨年1月中旬に雪が降った翌日の早朝、雪化粧した近所の田んぼを撮影したものです。わらの山ができた田んぼと奥に広がる工業団地を、朝モヤで区切るように撮影したことで、「これ以上開発が進まないでほしい。そして、いつまでもこの美しい行田の景色が残っていてほしい」という思いを表現したそうです。一昨年、昨年と2年連続でこのコンテストの優秀賞を受賞している小山さんは「自分の思い入れがあった作品で最優秀賞を受賞できてうれしい半面、ほっとしています」と照れながら話してくれました。

「写真とは、自分史のようなもの」。被写体との一期一会を大切にしながら、これからも小山さんは写真で思いを伝えます。

## 私の作品

### 俳句

忍 伊藤 英子  
独居が九人に増えるお正月

荒木 秋山 二郎  
酔顔や夢は切り張り寝止月

白川戸 大熊みつ子  
初夢や飛びはねている吾が五体

須加 原 ちか子  
良き事でうめつくしたし初日記

荒木 藤田 榮之  
消防車去りてどんどの杜の闇

荒木 蛭間しげ子  
友集う声だけ元気冬の力フェ

前谷 石井マサ子  
古ギズをいたわりつつも夜半の冬

城西 新井 恒雄  
焼きねぎを醤油で食べる冬の夜

向町 渡月 峯  
大晦日ひそかにもしや 宝くじ

城西 西田吉之助  
霜柱歩く足元首残す

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

谷郷 富山 由喜  
寒西でんと構える富士の山

谷郷 鴛崎 信行  
風牙ゆる天に突きさす三日月

城南 町田 達男  
雪見酒はずむ会話に夜も更けり

城南 千代田富子  
日だまりにほく寄せあつて福寿草

城南 関口 操  
三陸路絆でつなく福寿草

(木島 斗川 監修)

『忍城とオールドカーのラブ!!』

(写真)





**大野 桜弥ちゃん** (桜町)  
父・亨さん 母・智子さん  
平成23年3月15日生まれ  
「君の笑顔が家族の幸せ☆」



**毛利 心春ちゃん** (押上町)  
父・雅之さん 母・優佳さん  
平成23年3月8日生まれ  
「pdpへ元気に育ってね♡」



**永原 由菜ちゃん** (佐間)  
父・俊昭さん 母・朋子さん  
平成23年3月22日生まれ  
「優しく皆から愛される子に♡」

はじ め ま し て



**関口 樹苺ちゃん** (谷郷)  
父・淳さん 母・那奈さん  
平成23年3月25日生まれ  
「明るく元気な子に♡」



**鈴木 咲汰ちゃん** (長野)  
父・孝史さん 母・香さん  
平成23年3月27日生まれ  
「陽大と仲良く元気に育ってね♡」

平成23年5月生まれのお子さんを募集します

○3月1日(木)~30日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。



○応募者多数の場合は、4月4日(水)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

さわやか サークル

大正琴さくら会

~心を一つに奏でる四重奏~

合奏は全員の気持ちを一つにすることが大切。同クラブの皆さんは、楽譜どおりに弾くのはもちろんのこと、リズムを口ずさみながら息を合わせて演奏しています。「皆が仲良く、同じレベルで弾けるよう心掛けています」と語る三友さんは、時にはマンツーマンで指導をします。その熱意ある指導に因應するように、真剣な表情で、ほかのパートの音を聞きながら演奏するメンバーの皆さん。「ソプラノは曲全体の把握がしやすく、アルトと主旋律の掛け合いが楽しい」「テナー



奏を楽しんでいる「大正琴さくら会」の皆さんを紹介します。

大正琴には大小さまざまな流派がありますが、同クラブが所属している琴伝流は、大きさは弦の太さなどが異なるソプラノ、アルト、テナー、ベースの4種類の大正琴で合奏を行うのが特徴です。四重奏の迫力に魅了された方が、講師を務める三友菊鳳先生の下に集まり、平成8年に同クラブが発足しました。

南河原公民館のホールに響き渡る弦楽器の心地よい音色。今月は、毎月第2・4金曜日の午後1時30分から3時30分まで、10人のメンバーで大正琴の合



やベースは主旋律はないけれど、曲全体の土台となるためリズム感を要求されます」とそれぞれのパートに誇りを持って取り組んでいるため、ハーモニーがきれいに重なり合うと達成感でいっぱいになるそうです。

春に行われる埼玉県東部地区大会や、秋の南河原公民館フェスティバルに向けて、日々練習に励む同クラブは、老人ホームでのボランティア訪問にも積極的に取り組んでいます。「私たちの合奏を楽しみに待っていてくれる人がいます。そのことが本当にうれしいです」と充実した日々を過ごしている様子の皆さん。これからも息の合った四重奏の音色で、聴く人を笑顔にすることでしょう。

▼問い合わせ 吉野 ☎55710818